



# PlateRite HD 8900

User Report : 株式会社ユーホウ

## PlateRite HD 8900S

### + 4,800dpi レンチキュラーオプションの活用で 印刷表現の幅がさらに拡大

製版専業からスタートした株式会社ユーホウは、2000年に印刷機とCTPを導入し、印刷事業を本格化させた。以降、製版で培ってきた技術を生かして6色印刷、立体印刷などの高付加価値印刷の技術を次々に手中に収め、これらを軸に独自性を強めていった。3年余り前からはレンチキュラー印刷に取り組み、2014年9月、CTPをPlateRite 8600から「PlateRite HD 8900S (4,800dpi レンチキュラーオプション付き、1号機)」に更新、「お客様の売りに貢献できる」印刷物を提供している。



代表取締役  
増子 光晴 氏

#### 市場が確立している中国でも 評価されるレンチキュラー

レンチキュラーとは両眼視差を利用したもので、一般的にはいくつかの画像を合成して一つに印刷。かまぼこ型のラインレンズ（レンチキュラー板）を通じて、左右の各々の目に個別の多面的または複数枚の絵を見せることにより、奥行きや飛び出しを立体的に感じたり、絵柄が切り替わったり動いているようにみせる特殊印刷技術である。

製版と印刷の両面で豊富な実績を持つ株式会社ユーホウの増子光晴社長は、数年前から中国で印刷関連のイベントや技術学会で講師を務め、また印刷環境を改善するためのコンサルティングも行ってきた。そうした中で、技術レベルを上げた現地企業の何社かがレンチキュラー印刷を始め、パッケージや玩具などに展開していった。

すでに株式会社ユーホウは、CTP「PlateRite 8600」や最新鋭の印刷機を使った高付加価値印刷（ヘキサクローム、カレイド、高精細印刷）でクライアントから高い評価を受けていた。そのため「今さらレンチキュラー印刷を始めて、品

質を落とすようなまねはしたくない」（増子社長）と新分野への進出には否定的だった。しかし中国市場でたちまちのうちに大きな市場ができあがったレンチキュラーの状況を見て、次なるステップとして3年余り前にレンチキュラーに挑戦することを決断した。

900線まで網点密度を細かくしたクオリティーの高い印刷を手掛ける同社だが、当初は苦労の連続だったと言う。

「レンチキュラーに取り組むにあたっては、専門書を読みあさり、国内のレンチキュラーの製品を買い集めて勉強しました。アメリカの論文を取り寄せ、研究したこともあります。これによって理論的に理解することはできましたが、やってみるとなかなか理屈通りにはいかない。繰り返し精度という点で、当時のレンチキュラー板は、精度の面で粗悪だったからです。現に日本のレンチキュラーは中国のものより立体感や自然感が乏しい。そこで、もっと細線化していこうと本腰を入れて取り組むようになりました」（増子社長）

しばらくの間は試行錯誤の繰り返しであった。それでも、奥行き感や飛び出し感などで印刷品質をより良く表現することができれば、自分たちの印刷技術の幅を

さらに広げられるし、ひいてはお客様の売りに貢献できると、印刷環境のすべてを見直してみた。こうしてユーホウのレンチキュラーの品質は、レンチキュラーの市場が確立されていた中国においても高く評価されるようになった。

同社のズバ抜けて高い品質を支えたのが「PlateRite 8600」であったが、クライアントへのプレゼン段階で思わぬ出来事が起こった。

某ベンダーが市場に投入していた4,800×2,400dpiの「疑似4,800dpi」のCTP出力が4,000dpiの「PlateRite 8600」より解像度が高く、出力品質が優位であるとの誤った判断をされ、同社が制作したレンチキュラーの実物を見る前に仕事を取られてしまったのだ。





## 高い品質・精度・安定性と残業時間が激減

「レンチキュラーは非常に面白い技術であり、これを一過性のものとして終わらせたくない」と考える増子社長は、2014年9月にCTPを「PlateRite HD 8900S (4,800dpi レンチキュラーオプション付き)」に更新した。

「4,800dpiに更新して最もメリットが大きかったのは、例えばカレンダーでも今まで表現できなかった奥行き感、立体感が出せるようになったことです。4,000dpiと4,800dpiの800dpiの差は想像以上で、一つひとつの画像のシャープネスが格段に違いました」

ヤレ率も大幅に改善。版を焼き直して作業しなければならぬという精神面でのイライラ感がなくなったのも大きな効果だ。

また、生産性20pphのPlateRite8600から43pphのPlateRite HD 8900Sに更新したことにより、導入後わずか3カ月で通常の仕事については、従来と比較にならないほど稼働率がアップした。出力に関してはまったく負荷がないため、生産性は40%近くも上がったそうだ。レンチキュラーに関しては、処理スピードこそ遅くなったが、それ以上に品質・精度・安定性

の面で高い効果が得られた。これによって「残業時間は驚くほど減った。激減ですよ」と増子社長。

レンチキュラーは、言葉ではなく絵の動きだけで情報を視覚化できる。そういった特長を生かして、例えば飛行機内での酸素マスクの付け方、高齢者向けの酸素吸入ポンベの取扱説明書、公園での遊具の使い方などといった「動く操作説明書」へと応用展開しつつある。

## 高い販促効果で、クライアントの売り上げ増加をサポート

2012年、原宿駅近くに「イノベーション オアシス」(東京都渋谷区神宮前4-9-1 神宮前AKビル302)がオープンした。ここでは、株式会社ユーホウの代名詞ともいえる超高精細印刷物をはじめ、ヘキサクローム、カレイド、高輝度印刷物を広く展示、公開している。

「ここにある印刷物はすべて当たり前のように見えますが、実際には当たり前のもは一つもありません。例えばマルチスクリーニングをはじめ、ヘキサクロームやカレイドを使ったものがあるし、レンチキュラーがある。クリエイターがふらっと立ち

寄ってこれらの展示物を眺め、脳裏のどこかに焼き付けてくれたなら、いつかは“あそこにあったあの技法を使って印刷物を作ってみたい”と制作意欲を高めてもらえる。そういったケースが増えていけば、結果的にわれわれの技術にも絶対にプラスになります」

株式会社ユーホウの社員数は9人。それでいて、レンチキュラーを始めてからこの3年間で、最新鋭の印刷機2台と「PlateRite HD 8900S (4,800dpi レンチキュラーオプション付き)」などの設備を次々に導入した。これだけ設備投資に資金を投入しているのは、「今やっていることをさらに突き詰めたい」(増子社長)と考えるからだ。

「厳しい経営環境の中で、多くの印刷会社がインクジェットやPODなど新しいジャンルの世界に踏み込もうとされています。それはそれで素晴らしいことだと思いますが、我々はいま自分たちが取り組んでいる技術をさらに深め、お客さまの商品がもっともっと売れるよう販促物づくりをお手伝いしたい。わずか9人の会社が成長していこうとすればそこしかありません。そこで4,800dpiの登場です。これがあれば、我々が思い描く当社の未来図が確実に実現できるだろうと思っています」

販促効果を高める新たな表現方法の幅を広げ、クライアントの売り上げ増加を今まで以上に強力にサポートしていこうと、ユーホウは精力的に超高細線技術を極めていく。



### 株式会社ユーホウ

住所 埼玉県蕨市北町5-10-28  
代表者 代表取締役 増子 光晴  
創業 1982年  
従業員数 9人  
<http://www.ciz.co.jp/>

# SCREEN

## 株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマトナベ深川1号館  
<http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店 / 03(5621)8266(代) 大阪支店 / 06(6268)6600(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)  
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)  
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)  
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 075(326)1350(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)  
四国営業所 / 087(837)8151(代)

## 株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目  
<http://www.screen.co.jp/gp>

※本カタログは、弊社の Fairdot 2 で印刷しています。  
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。  
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。  
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。  
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。